

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター むくの木園		
○保護者評価実施期間	令和6年 7月 日 ~ 年 月 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 日 ~ 年 月 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育の中で療育の視点を入れながら、個々の発達に合わせた紫雲を計画的に行っている 特に生活面での自立に向けた取り組みをしている	通常、保育園などで行っているような行事を子どもたちの段階に合わせてやり方を配慮しながら経験する場を作っている それらの行事や保育経験を通してそれぞれの子どもの持っている力を引き出し、自信をつける機会を作っている 保護者にも親子で一緒に何かを達成する機会を作っている	
2	常にPDCAサイクルを意識して関わり、その都度、関わりの修正をしている	保育前に、その日の予定、役割を確認し、保育終了後には振り返りを行い、翌日の保育を決めたり、関わり方を相談し、修正するようにしている	他の業務が増える中で、打ち合わせの時間の確保をどうしていくかは検討課題
3	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題についての共通理解を心掛けている	連絡帳や個人面談、保護者会などで個々の子供の様子を伝えている。特に連絡帳では、保護者の方の心理的な負担なども受け止めながら、関わり方を伝えたり、困りごとに対して、対処の方法を園でも考え、実践して、伝えるなど、一緒に歩んでいる 行事に保護者も参加してもらい、親子で経験、共感する場に	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とのつながりが薄い	地域柄、住宅が少なく、商業地、観光地と言うこともあり、連携が難しい	自立支援協議会などを活用しながら、園が請け負える役割を地域に伝える等、顔の見える関係づくりをしていく
2	職員の保育への参画はできているが、児童発達支援センターとしての役割を職員全体が理解し、園全体の運営までの関心が薄い	センターの役割を職員に周知できるように発信がうまくできていない	地域の状況、園の状況、自立支援協議会などの内容を職員会議などで伝えていく
3			